社会科・地理歴史科教育法

Methodology of Teaching Social Studies / Geography and History

ARAI Masako 荒井 雅子　TOGAWA Tomoru 戸川 点

科目ナンバリング：UTL-3-201-01

■授業の目的及び到達目標

地理歴史科の教育目標、育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について学問領域における成果を踏まえて理解し、適切な授業設計ができる力を身につけることを目的とする。学習指導要領に示された目標、学習内容を理解し、様々な学習理論や方法をもとに、授業設計と学習指導案を作成できるようにすることが到達目標である。

■授業計画

〔前期〕

1 社会科・地理歴史科の位置づけ
学習指導要領の変遷と社会科・地歴科の位置づけについて学ぶ。
2 教科の目標
学習指導要領における高校地歴科、中学校社会科地理的分野、歴史的分野の目標についてまとめ、理解する。
3 指導内容・指導上の留意点(1)
中学校社会科地理的分野の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
4 指導内容・指導上の留意点(2)
中学校社会科歴史的分野の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
5 指導内容・指導上の留意点(3)
高校歴史総合の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
6 指導内容・指導上の留意点(4)
高校世界史探究の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
7 指導内容・指導上の留意点(5)
高校日本史探究の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
8 指導内容・指導上の留意点（6）
高校地理総合の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
9 指導内容・指導上の留意点（7）
高校地理探究の内容及び指導上の留意点についてまとめ、理解する。
10 学習評価
地歴科における学習評価のあり方について考える。
11 教材研究のすすめ方と ICT の活用
学問領域における研究成果を取り入れた教材研究のすすめ方について学び、ICT を活用した授業実践を学ぶ。
12 史・資料の扱いについて
歴史的史料をはじめ、さまざまな資料の取り扱いについて学ぶ。
13 教材の開発と前期の学修の総括
前期の内容をまとめるとともに、生徒の興味関心を高める教材の開発と活用について考える。
前期の試験も行い、フィードバックとしての解説も行う。

〔後期〕

1 中学校における ICT の活用と様々な学習形態
中学校において ICT をどう活用するかを考え、あわせてアクティブ・ラーニングの方法としてグループワークやペアワークのすすめ方について学ぶ。
2 高等学校における ICT の活用と様々な学習形態
高校において ICT をどう活用するかを考え、あわせてアクティブ・ラーニングの方法としてジグソー法やワールドカフェの活用について学ぶ。
3 学習指導案の作成(1)
学習指導案の作成について（１） 学習指導案の書式や書き方について具体的に学ぶ
4 学習指導案の作成(2)
学習指導案の作成について（２） 学習指導案を作成する単元の授業設計をレポートする。
5 学習指導案の作成(3)
学習指導案の作成について（３） 学習指導案を作成し、提出する。
6 模擬授業演習(1)
授業研究　中学校地理的分野について模擬授業を通して検討する。
7 模擬授業演習(2)
授業研究　中学校歴史的分野について模擬授業を通して検討する。
8 模擬授業演習(3)
授業研究　高校歴史総合について模擬授業を通して検討する。
9 模擬授業演習(4)
授業研究　世界史探究について模擬授業を通して検討する。
10 模擬授業演習(5)
授業研究　高校日本史探究について模擬授業を通して検討する。
11 模擬授業演習(6)
授業研究　高校地理総合について模擬授業を通して検討する。
12 模擬授業演習(7)
授業研究　高校地理探究について模擬授業を通して検討する。
13 授業改善の方法と 1 年間の学修の総括
授業改善の視点について学ぶ。
1 年間の授業を振り返り、まとめ、試験を実施する。
フィードバックとして解説も行い、各自の到達度と課題を総括する。

■授業の方法

前期は講義が中心となるが、各自に学習指導要領の読み込みなどの主体的な学習を求める。またアクティブ・ラーニングやグループワーク、模擬授業など実践的な演習も十分に時間を取って学んでいく。

■予習・復習

毎時間、次回の授業内容に関する事前の調べを求めていく。そのことをもって予習とする（合計 5 時間程度）。また授業終了後には毎回授業内容に即した参考文献を読み、内容に関する理解を深めること。それをもって復習としていく（合計 5 時間程度）。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

成績評価は試験 50%、提出物・小テスト 25%、模擬授業や授業への取り組み状況 25%などの割合でを総合的に評価する。試験終了後にはフィードバックとして解説を行い、まとめを行う。

■教科書・参考書

教科書：文部科学省『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）『高等学校学習指導要領』（平成 30 年告示）。
参考書：授業時に指示する。

■関連する科目

「日本史概論」「外国史概論」「自然地理学」「地誌」「社会科（公民的分野）・公民科教育法」などが直接関連するものだが、そのほか教職課程に関する科目すべてが関連する。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

講義を担当する戸川点 、荒井雅子はそれぞれ中学や高校現場で地歴科・公民科の教員として勤務した実績を持っている。教育実習生の指導経験や管理職として所属校の地歴科・公民科教員への指導実績などを持つ。